

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4170200267
法人名	有限会社 バリアフリーLife
事業所名	グループホームひだまり
訪問調査日	平成 19 年 10 月 17 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 11 日
評価機関名	社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200267
法人名	有限会社 バリアフリーLife
事業所名	グループホーム ひだまり
所在地	佐賀県唐津市佐志1146番地11 (電話) 0955-74-1207

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成19年10月17日
評価確定日	平成19年12月11日

【情報提供票より】(19年 9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木道造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	800 円		

(4) 利用者の概要(9月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)なごみ会 酒井医院 はるみ歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った静かな環境で、高台にあるため唐津湾を一望できる。各居室から外に出て景色が眺められるようバルコニーが設置され、車いすの方も自由に出ることができる。職員は、ターミナルケアまで視野に入れた介護を行い、医師・家族・職員の協力の下、最後までホームでお世話することができる。また、学習療法に取り組み、職員全員が研修を受け希望される方に実施し、自発性が出るなど良い結果につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の結果やアンケート結果等を他事業所も含め総合的に集計し、事業所内で改善する課題は、内部の会議で検討し、各事業所の検討結果を集約し、会社全体で改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組み、事業所会議で改善に向けた話し合いを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議で出席者より、介護保険の制度はわからないとの相談があり、地区の漁協で、介護保険の説明を行った。また、運営推進会議で、グループホームの生活の様子をビデオにて紹介するなど地域への積極的な広報にもつなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年2回の家族へ郵送によるアンケートを実施し、家族の意見等の情報収集を行い対応について検討し、アンケート結果の報告と苦情等への対応について家族へ報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームの夏祭りには、地域の方に声かけを行い、多くの方が参加され交流の機会になっている。また、地区のお祭りに参加し、地元の方と交流することに努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「寄り添い」という事業所の介護理念を、①利用者②家族③背景④環境⑤地域と、わかりやすい言葉でホールの見えやすい場所に掲示している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の場で職員一人ひとりが、理念にそっての支援について発表し、職員全体で話し合い、理念が共有できるようにしている。		
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの夏祭りには地域の方に声かけを行い、多くの方が参加され、交流の機会となっている。また、地区の祇園祭には役員の方と話し合い積極的に参加している。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で自己評価に取り組み、事業所会議で改善に向けた話し合いを行っている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の報告とともに、出席者からの意見をもらい、その場で返答できることはその場で返答し、次回の会議で報告できることは次回の議題に入れ、意見を反映できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者へ運営や制度など疑問点を確認しながら実施していくことで、連携がとれ、現在では、市町村などから研修の受け入れ依頼や講師依頼が来るようになってきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	3ヶ月に1回の家族会や2カ月に1回のお便りの送付を行っている。遠方のために訪問ができない方には、ビデオレターなど、家族と話し合いながら工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の郵送によるアンケート配布で、家族の意見等の情報収集を行い、対応について検討し、アンケート結果と苦情等の対応策について、家族へ報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ馴染み関係が継続できるようにしているが、事業所内の異動などで交代になることがある。	○	利用者やご家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの関係が大切である。職員の異動時は、利用者やご家族の方への報告を工夫するなど、不安感を少なくする取り組みの充実を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修や定期的に事業所内研修・外部研修に参加するなど、職員全員が学習の機会がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新しくグループホームを作られるところの職員研修を受け入れ、その後、交流につながっている。事業所内の研修に、他のグループホームの職員も参加できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と話し合い、入所までに自宅訪問を行うことやグループホームに数回訪問することで、顔なじみの関係を作り安心して入所できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は対話を通して、一人ひとりを理解しようと、利用者からの言葉を大切にもらえ、本人の思いに共感し理解しようと努力してる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の思いに関心をよせ、思いの把握に努めている。家族からも情報収集を行い、以前の生活の様子などを参考にして支援につなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時は家族へ連絡し、意見を聞き反映させるようにしている。職員全員で計画について話し合い、それぞれに担当職員を決めて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化がある時は柔軟に対応し、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日々の生活で、買い物や外出の支援や事業所独自のプログラムで家族と話し合い希望される方には、学習療法に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診で、定期的に体調管理を行い、緊急時は適切な指示が受けられるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時から終末期について意向の確認を行い、適宜状態の変化に応じて、話し合いを持っている。ターミナルケアも職員の共通理解のもと対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した、さりげない言葉かけや対応で配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活を大切に、生活の様子を聞き、朝仏壇にお茶を供えたい方には継続できるように、職員が各々の方の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむために、週2回の選択食を行い工夫している。食後の片づけ、食材の下ごしらえなど、一緒に行い利用者のできることを、大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日課の取り決めはなく、いつでも入浴ができる。入浴嫌いの方には、どうしたら楽しく入浴ができるか、支援の方法も検討している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前の生活の様子を聞くことで、歌の好きな方には音楽を聴く機会を作ったり、畑作業で収穫の楽しみを感じられるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の店まで散歩や買い物に行ったり、バルコニーから外の景色を眺めたりして、外で過ごす機会を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、職員の見守りで安全面に配慮しながら、鍵をかけない生活に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施している。訓練の実施は、地域の消防団へ声かけを行い、協力が得られるよう働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・排泄など、一人ひとり記録し把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい居間には、バルコニーがあり外を眺めることができる。畳の空間とソファなど自由に座ることができる場所がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より家具を持ち込まれ、ベッドの位置や家具の配置は本人が過ごしやすいように工夫している。		